

第1学年 社会科学習指導案

日 時 平成26年11月6日(木) 5校時
学 級 1年A組 男子14名 女子10名 計24名
場 所 1年A組教室
授業者 平田 隆裕

1 単元名 第3章 世界の諸地域 3節 アフリカ州 (東京書籍・新しい社会地理)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、『中学校学習指導要領』地理的分野の内容(1)世界の様々な地域 ウ「世界の諸地域(ウ)アフリカ」にあたる。「世界の諸地域」については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地理的特色を理解させることを目的としている。主題については、州の地理的特色が明確となり、かつ、我が国の国土認識を深める上で効果的であるという観点から設定することとされている。ここでは、主題をモノカルチャー経済下のアフリカ諸国の人々の生活と設定し、追求させる。アフリカでは、第一次産品にたよるアフリカ諸国の脆弱なモノカルチャー経済、豊富な鉱産資源の輸出による発展と貧富の格差などの特徴が見られる。こうしたアフリカの現状とそれともなう生活の特徴、そこから発生する諸問題、さらにそれに対する対策として、先進国をはじめとした世界の国々、とりわけ日本との関係からアフリカの地域的特色を理解するよう指導していく。

アフリカが現在抱える問題として、近年の急激な都市化と人口増加による、上下水道の整備の遅れ、貧富の差の拡大や貧困層の労働問題、スラムの問題など都市問題が顕著である。また、食糧不足や栄養不足、感染症の蔓延による死亡率の高さなども大きな課題である。さらに環境問題も深刻であり、農地の拡大による森林、野生動植物の減少など多くの課題も抱えている。世界の他の州に比べて、多くの課題を抱えているアフリカ諸国は、問題を共有し、解決の方法を共同で考えるため、アフリカ連合(AU)を結成し、地域統合を目指すなど自立のためのさまざまな努力も行っている。しかし、アフリカの自力のみでの発展には限界がある。

このような中、先進工業国は食料援助や開発援助などアフリカの自立に向けたさまざまな援助を行っており、アフリカ発展に大きな役割を果たしている。アフリカの豊富な鉱産資源や石油、希少金属(レアメタル)の産出、輸出は先進工業国にとって非常に有用であり、結びつきを強めながら、互いに発展していくことを目指している。先進工業国の一員であり、アフリカの豊富な資源によって支えられている日本にとっても、アフリカの課題をしっかりと把握し、アフリカの発展のために力をつくすことは、アフリカのみならず日本の発展にとって必要不可欠である。

本単元の学習により、世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させたり、地域の課題をとらえさせたりすることで、広い視野にたつて社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察する力を身に付けることができると考える。また、その際、日本や世界の諸地域が相互に関係し合っていることを追求させることは、国際社会に生きる平和で民主的な国家社会の形成者としての市民的資質の基礎を養う上で価値のあるものだと考える。

(2) 生徒観

本学級は、全体的に明るく元気があり、男女の仲も良好である。お互いを認め合い、支え合う雰囲気の中で授業に取り組むことができている。

社会科の授業においては、真剣に集中して取り組んでいる。社会科についての興味・関心や知識・理解能力に多少の個人差はあるものの、しっかりと耳を傾け、一生懸命に活動している。

しかし、社会科については、「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えている生徒の方が多く、また、地理分野よりも歴史分野のほうに興味関心が高い傾向がある。

資料の活用に関しては、地図や資料集を用いながら授業を進めている。ほとんどの生徒は資料を読み取ることができるものの、読み取ったことを比較したり、関連付けたりする力、自分なりの見方や考え方を交流する力は不足している。このことは、思考力・判断力・表現力の育成が不十分であることが裏付けられ、因果関係を追求したり、既習事項や社会的事象や条件とを関連付けする活用型の学習活動や探求型の学習活動の経験が不足しているものと推察する。

本単元の「アフリカ」についてのイメージは、「暑い」「砂漠」「野生動物」などの大陸イメージと、「経済的に貧しい」などのマイナスイメージしかなく、生活や文化についての知識も希薄である。そこで、アフリカ州への興味・関心を持って学習できるよう工夫しながら、アフリカ州への理解をより深めていきたい。そして、単元学習を通して、少しずつ思考力・判断力・表現力も付けさせていきたい。

(3) 指導観

本単元では以下のことに重点を置いて指導にあたりたい。

- ①アフリカの実情について、グラフ資料やニュース、新聞などから適切な資料内容を厳選し、生徒がより具体的に学習課題について分かりやすく考えられるようにする。
- ②日本の資料とアフリカの資料を比較する場を設定し、地域的特色をとらえやすくする。
- ③思考力・判断力・表現力をはぐくむための自力解決、学び合いの場や時間を確保する。

また、本校の研究主題である「わかる授業の創造」に向けて、言語活動の工夫や充実を図っていききたい。そのために、「取り出す（読む）」「考える」「表現する」の言語活動を問題解決学習の学習過程に位置付け、単元全体を見通した指導をしていきたい。そして、わかる授業を行うため、ペアやグループ活動での教え合いの場面も位置付けていきたい。

3 単元の目標と言語活動

(1) 単元の目標

- 社会的事象への関心・意欲・態度
 - ・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、アフリカの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追求させる。
- 社会的な思考・判断・表現
 - ・アフリカの地域的特色をアフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現できる。
- 資料活用の技能
 - ・アフリカの地域的特色に関する様々な資料を収集し、収集した資料からアフリカの地域的特色について有用な情報を適切に選択できる。
 - ・適切に選択したアフリカに関する情報を基に、地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりできる。
- 社会的事象についての知識・理解
 - ・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、地域的特色を理解することができる。

(2) 本校社会科における言語活動のとらえ

A 「取り出す（読む）」

- a 目的を明確にして資料を読み取る。
- b 資料の特徴に応じた読み取り方をする。
- c 複数の資料から読み取った情報や事実の違いや共通点に気付く。
- d 複数の資料から読み取ったことをもとに問題や課題を読み取らせる。

- B 「考える」
- a 資料から分かったこと、そこから考えたことを区別する。
 - b 取り出したことを根拠とし自分の考えを述べたり書いたりする。
 - c 学び合いを通して自己の考え方を深める。
- C 「表現する」
- a 学び合ったことをもとに、自分の考えを述べたり書いたりする。
 - b 自分の考えを修正したり整理統合したりしながら表現の内容を高める。

(3) 本校社会科における言語活動の工夫・充実について

- ① 単位時間における問題解決的な学習過程の中に、A「取り出す（読む）」B「考える」C「表現する」言語活動を位置付ける。
- ② 言語活動を構成する際には、A「取り出す（読む）」B「考える」C「表現する」活動における学びが一体的なものとして効果的につながり、社会的事象のもつ意味に迫ることができるようにする。

(4) 本単元における言語活動の工夫・充実について

学習過程の中に、A「取り出す（読む）」B「考える」C「表現する」言語活動を位置付け、自力解決、学び合いを行ってそれぞれの言語活動を深めさせる。特に、B「考える」言語活動を充実させていきたい。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、アフリカの地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追求して、とらえようとする。	・アフリカの地域的特色をアフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現しようとしている。	・アフリカの地域的特色に関する様々な資料を収集し、収集した資料からアフリカの地域的特色について有用な情報を適切に選択している。 ・適切に選択したアフリカに関する情報を基に、地域的特色について読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・アフリカに暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる主題を基に、地域的特色を理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（全4時間）

時間数	学習目標	評価規準	評価方法	用いる言語活動
第1時	1 アフリカ州をながめて ・アフリカの自然、歴史と文化、産業の特色について、雨温図や分布図、写真などの資料から概観し、基礎的・基本的な知識を身に付ける。	・広大な砂漠などをもつ自然、古い歴史と伝統的な文化、農業や鉱業を中心とした産業などの特色を概観し、理解している。 【社会的事象についての知識・理解】	・記述の分析 ・発表内容 ・観察 ・自己評価	A「取り出す」 a・b B「考える」 a・b
主題		モノカルチャー経済下のアフリカ諸国の人々の生活		

第2時	2 アフリカの産業と新たな開発 ・カカオや希少金属（レアメタル）の生産など、日本人の生活と関わりが深いアフリカの産業に対する関心をもつ。 ・アフリカのプランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取る。	・アフリカの産業と日本人の日常生活との関わりに関心を持ち、アフリカの農業や工業を意欲的に調べようとしている。 【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・アフリカの農業と工業の特色や問題点を、様々な資料の関連付けから読み取っている。 【資料活用の技能】	・記述の分析 ・観察 ・自己評価	A「取り出す」 b・c B「考える」 b・c C「表現する」 a・b
第3時	3 アフリカの課題と展望 ・都市化と人口増加、環境問題、貧富の格差等、アフリカの課題について理解する。	・現在のアフリカが持つ様々な課題を様々な資料を基に、アフリカの特色を読み取っている。 【資料活用の技能】 ・現在のアフリカが持つ様々な課題について、理解している。 【社会的事象についての知識・理解】	・記述の分析 ・発表内容 ・観察 ・自己評価	A「取り出す」 d B「考える」 b・c C「表現する」 a・b
第4時 本時	3 アフリカの課題と展望 ・アフリカと日本の関係を深めることの意義と大切さについて考え、理解する。	・アフリカと日本の関係の有用性と国際協力の大切さについて考えている。 【社会的な思考・判断・態度】	・観察 ・記述の分析 ・自己評価	A「取り出す」 b・d B「考える」 c C「表現する」 b

6 本時の指導

(1) 本時の目標

日本とアフリカの関係の深まりが双方にとってどのような意義があるのか、また、互いの関係の大切さについて考えることができる。 【社会的な思考・判断・表現】

(2) 本時の評価規準

項目	評価規準
社会的な思考・判断・表現	日本とアフリカの関係の深まりが双方にとってどのような意義があるのか、また、互いの関係の大切さについて考えている。

(3) 本時の構想

本時は、アフリカ州の学習のまとめの時間として位置付けられるので、前時までの学習内容を十分に生かしながら、アフリカと日本の関係の強化からアフリカの発展が日本の発展につながっていく可能性を探り、深めさせたい。課題解決では、自力解決の時間をしっかりと確保して自分の考えをもってから、学び合い（グループ学習）につなげていく。

学び合いでは、アフリカ、日本のそれぞれの立場に立って、関係が深まればどのようなプラス面が出てくるのか、資料から論述させたり、意見交換をさせたい。また、同じ地球に暮らす市民として、共に発展していくことの喜びなどにもつなげていけるようにしたい。

振り返りでは、学習課題に対するまとめを学び合いをもとに確認する。そして、単元全体のまとめの時間でもあるので、主題に対するまとめも行うようにしたい。

(4) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	○評価（観点・規準・方法） ・留意点
導入 5分	1, アフリカの課題を確認する。 ・人口増加 ・貧困 ・環境問題 など 2, 学習課題を把握する。	1, 前時に学習した内容を想起させる。 2, プリントに課題を書かせ、全員で確認させる。	・前時の学習内容を想起し、確認しているか。
展開 30分	3, アフリカと日本の関係が深まれば、お互いにどのようなプラス面があるのか考え、記入する。 4, アフリカと日本のプラス面について意見交換をグループごとに行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">学び合いタイム 1</div> ・アフリカの立場（3つの班） ・日本の立場（3つの班） 5, 話し合ったものを全体へ広める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">学び合いタイム 2</div> 6, TICAD V の内容等で日本が推し進めている活動や釜石でアフリカの人達との交流が行われていることを知る。	3, 自力解決の時間を確保し、資料からそれぞれプラスになることを考えさせ、根拠を入れた文章表現をさせる。 4, 書いたものを交流し、考えを膨らませる。それを全体の場へ広げる活動へつなげる。 ・アフリカ：貧困解消、経済成長、平和維持、教育の向上など ・日本：資源確保、輸出入増、観光客増、人材交流など 5, それぞれの立場から3つの班ずつに発表させる。 各班の発表から、全体で深めさせたいものがある場合は、グループの学び合いを取り入れる。 6, 日本が推し進めている活動から、アフリカと日本双方にとってのプラス面や同じ地球に暮らす市民として共に発展していく姿勢の大切さに気付かせる。	・資料からそれぞれプラスになることを考え、根拠を含めて書いているか。 ・コミュニケーションスキルを意識しているか。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ○【社会的な思考・判断・表現】 （記述の分析・観察・発表） 日本とアフリカの関係の深まりが双方にとってどのような意義があるのか、また、互いの関係の大切さについて考えている。 </div> ・日本が推し進めている活動からプラス面や地球市民として共に発展していく姿勢の大切さに気付くことができたか。
終末 10分	7, 本時・本単元の振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 本時のまとめ アフリカと日本の関係が深まれば、貧困解消や教育の向上などアフリカの課題を克服することにつながる。日本にとっても、資源の確保や輸出入の増加などのメリットもある。両者にとって関係を深めることはとても大切なことである。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 主題のまとめ アフリカはモノカルチャー経済のもと、困難な状況にある国が多い。また、環境問題や貧富の差など抱えている課題も多い。しかし、日本などいろいろな国と協力しながら発展している地域である。 </div>	7, 本時のまとめを確認させ、本単元の主題に対するまとめを書かせる。	・課題に対するまとめを確認し、主題に対するまとめを書くことができたか。